

視線計測による 社交不安測定手続きの提案

伊丸岡研究室
犀川隼

社交不安

社交不安障害(SAD)とは...

- 人前で何かをする
- 知らない人と交流する



世界中に多くの患者がいる
治療を受ける人は少ない

社交不安の査定方法と問題

調べるために質問紙が利用される

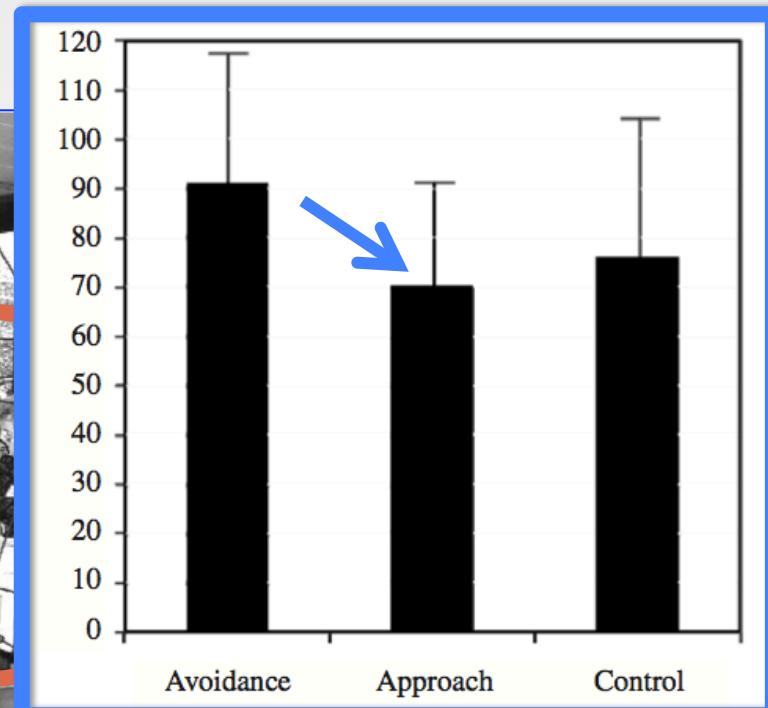
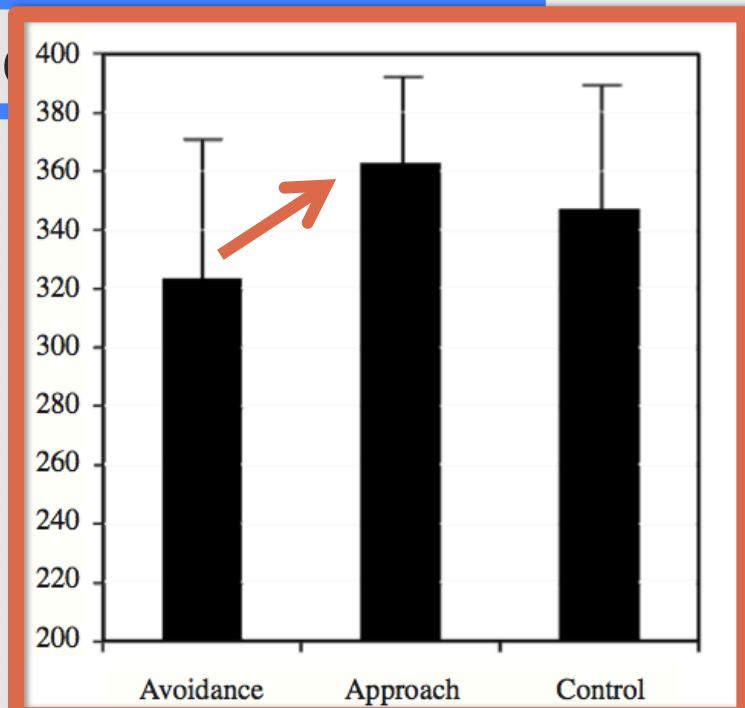
質問紙としての問題が…

- ▶繰り返し実施することによる影響

新たな指標を用いた査定手続きが求められる

Krajewskiの実験

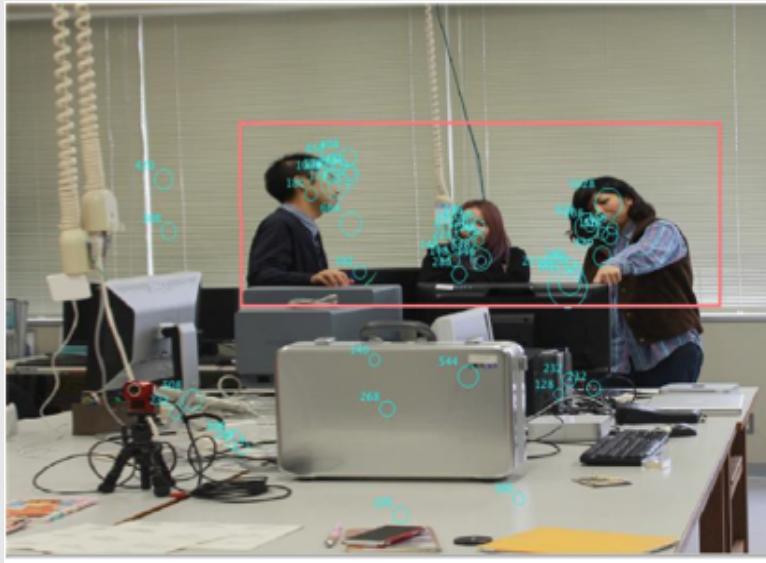
質問によって「接近」「回避」「統制」に分類



画像を見るときの視線に変化が生じた

寺崎の研究

視線計測のデータと不安尺度の得点を比較



しかし問題があった...

現状の整理

Krajewaski

- ・対人意識を操作することで視線に変化

► 対人意識のレベルが異なれば視線に違いが出るのでは

寺崎

- ・日本版の刺激を作成したが適切でなかった

► 新たな刺激を作成する必要がある

研究内容

Krajewaskiの実験を日本版で再現する

- 日本人に実施するには日本版の刺激が必要である

そのために...

- グループを振り分ける日本語の質問紙を作成
- 刺激画像を作成

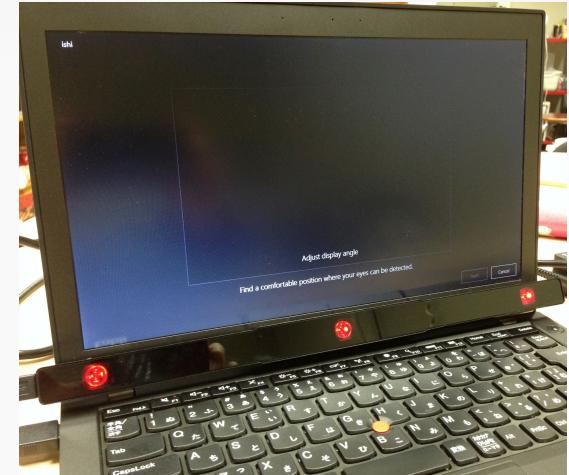
新たに作成する刺激で同様の結果が得られるか

実験について(参加者、装置)

参加者 53名の大学生

装置

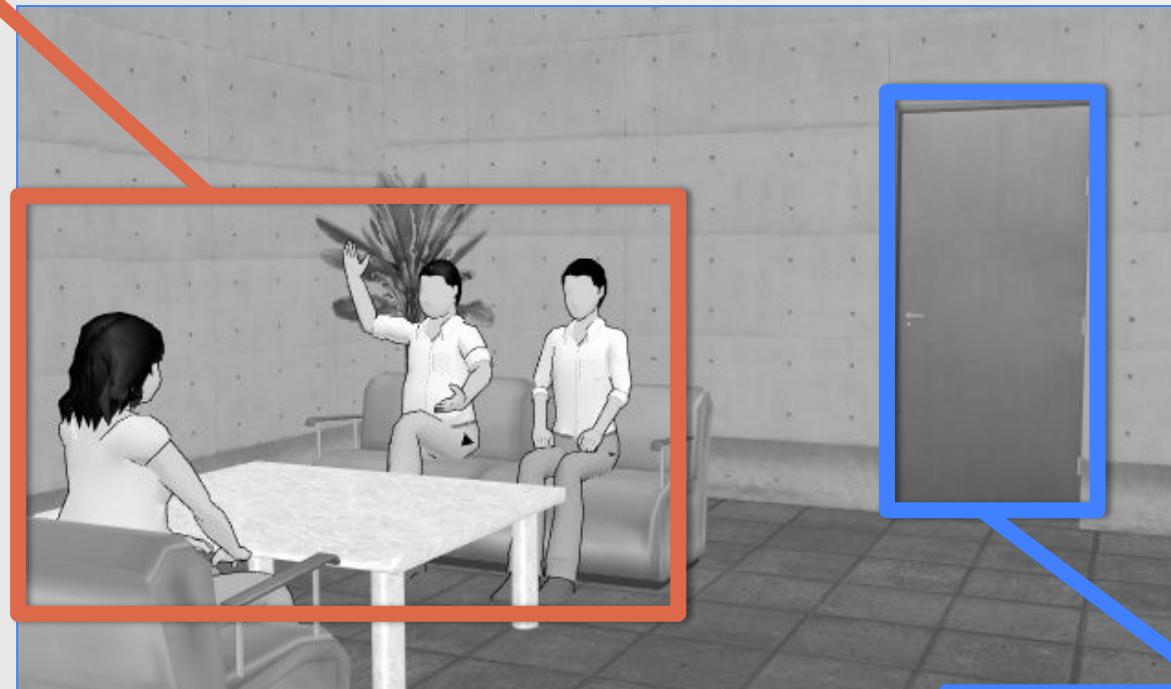
視線計測装置(Tobii eyeX Controller)



実験について(刺激)

CG刺激画像を自作した

social area



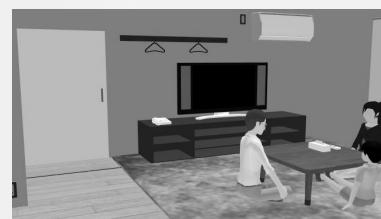
non-social area

実験について(手続き)

質問紙
(対人意識誘導)
接近/回避/統制



視線計測



⋮

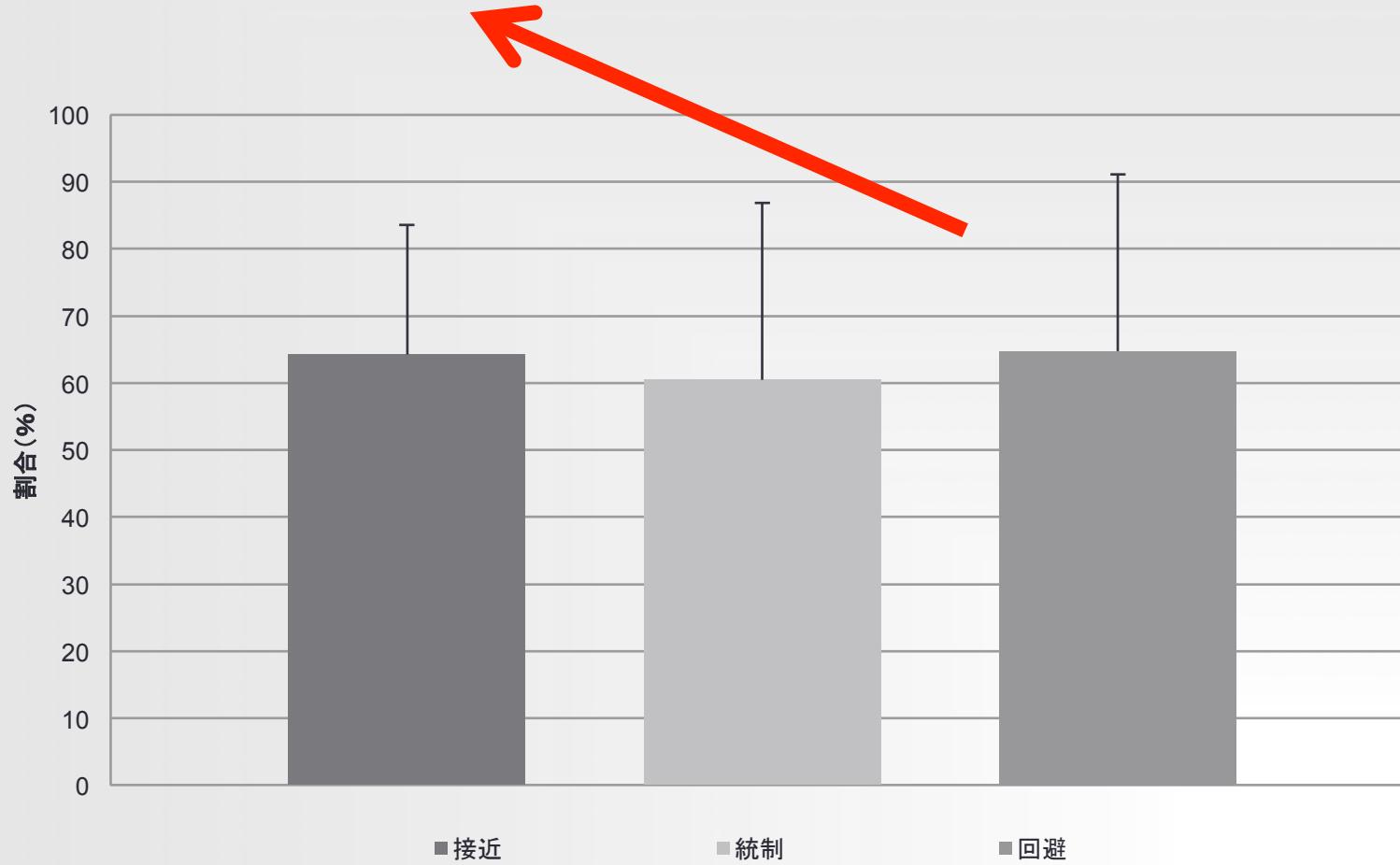


社交不安尺度

- SPS
- SIAS
- LSAS-J

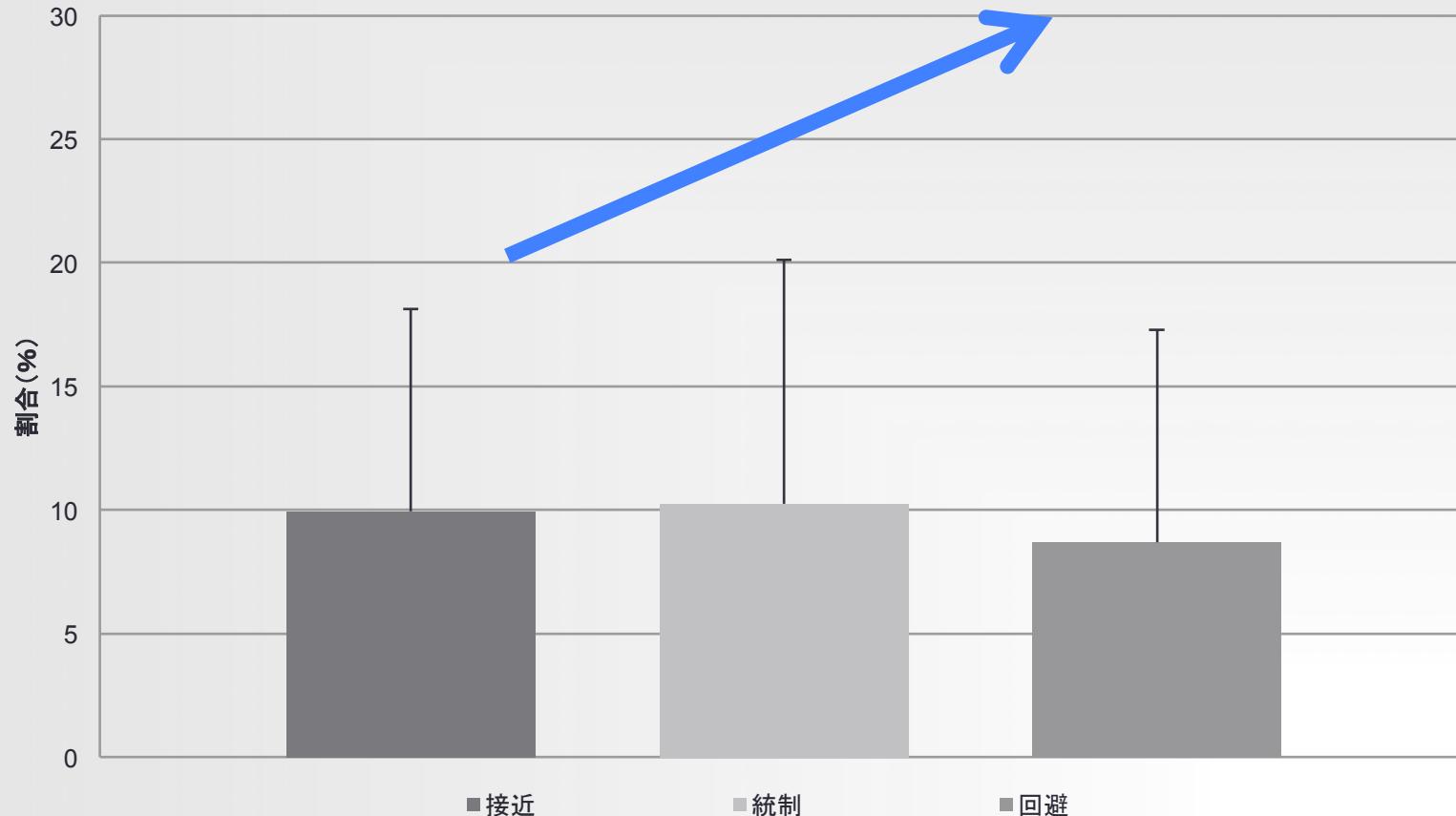


social areaを見た時間



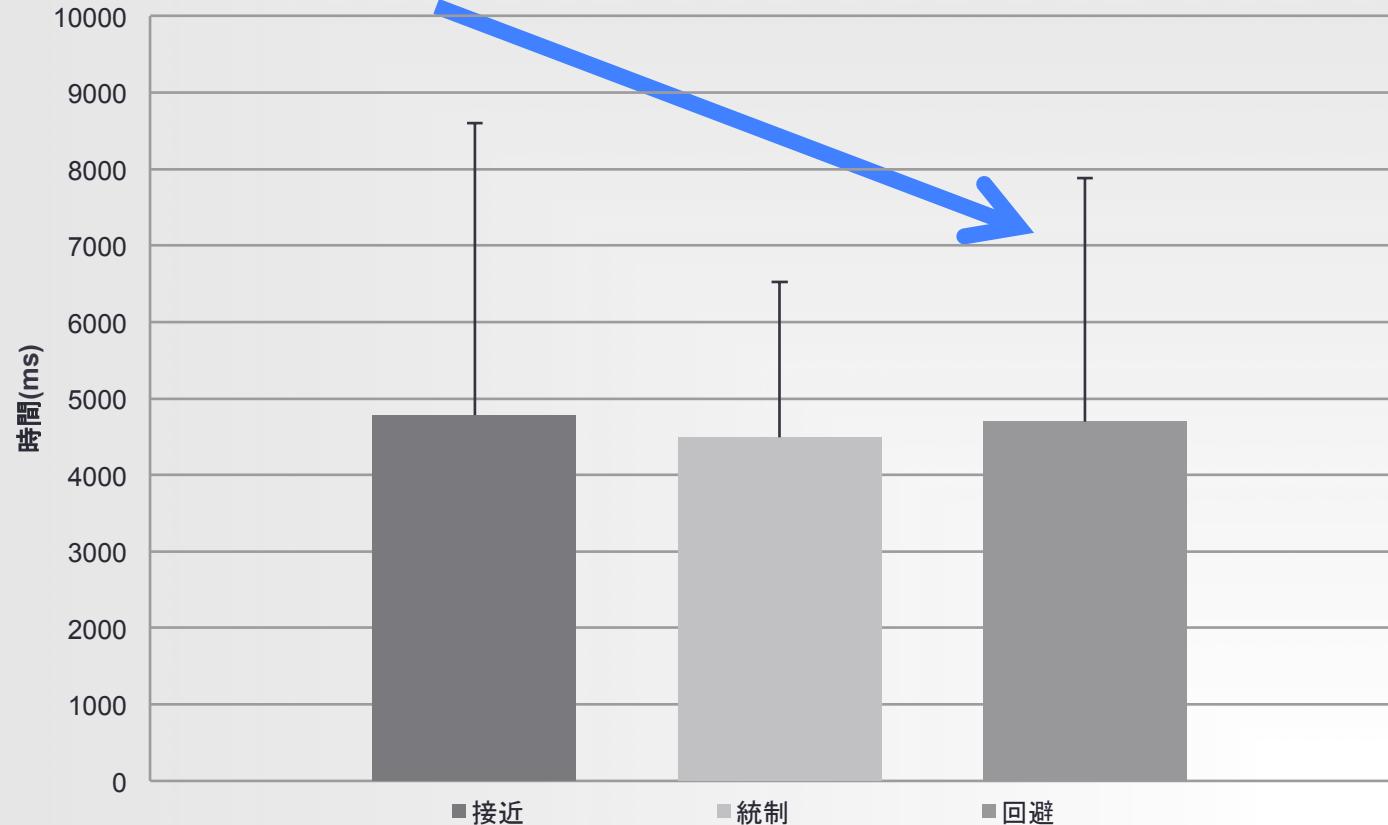
先行研究と同様の結果は得られなかった。
群の間に有意な差はみられなかった。

non-social areaを見た時間



先行研究と同様の結果は得られなかった。
群の間に有意な差はみられなかった。

non-social areaを見るまでの時間



先行研究と同様の結果は得られなかった。
群の間に有意な差はみられなかった。

結果についての考察

先行研究と同様の結果が得られなかつた。

対人意識の誘導に失敗したのではないか

- ・とくに回避群において成功していない

作成した画像が不適切だったのではないか

- ・実画像ではなくCG画像であったこと
- ・人間に表情がなかったこと

展望

先行研究を再現できなかつた原因の検証

- ・誘導質問の有効性の検討・改善
- ・刺激画像の有効性の検討・改善

視線データが有効であるか検討

- ・見た回数や移動の距離なども活用
- ・生理データとの比較

参考文献

American Psychiatric Association (2013). Diagnostic and statistical manual of mental disorders. Fifth edition: (APA 高橋三郎寄・大野裕(監訳) (2014). DSM-5 精神疾患の診断統計マニュアル 医学書院)

金井嘉宏・坂野雄二(2006). 社交不安障害患者の生理的反応に関する研究の展望 行動療法研究, 32(2), 117-129.

貝谷久宣 (2014). 社交不安症 脳科学辞典 2014年6月25日
< <http://bsd.neuroinf.jp/wiki/社交不安症> > (2015年2月2日)

Krajewski, Sauerland, and Muessigmann (2011). The Effects of Priming-Induced Social Approach and Avoidance Goals on the Exploration of Goal-Relevant Stimuli Social Psychology 2011;Vol.42(2) , 152-158.

寺崎友香梨 (2013). 社会性の違いによってみる場所は異なるのか
金沢工業大学プロジェクトデザインⅢ